

## 第3回 大野町小中学校のあり方外部検討委員会 議事概要

- 1 日時 : 令和7年3月24日(月) 午後3時00分から4時30分
- 2 場所 : 大野町役場3階 委員会室
- 3 出席委員 : 学識経験者2名、有識者1名、保護者代表3名、地域代表6名、  
学校代表1名、子ども園代表1名

### 4 議事の概要

#### ○あいさつ

- ・町長、委員長によるあいさつを行った。

#### ○協議事項(1) 答申(案)について

- ・事務局より、前回の答申(案)からの修正点について説明した。
- ・事務局より、補足資料「義務教育学校と併設型小中一貫校との違い」について説明した。
- ・答申(案)の内容については、次の2点の修正を以て、答申の確定とすることで委員の同意を得た。
  - 4ページ「所属感を高め」を「社会の一員として」に書きかえること。
  - 13ページ「～一案である」を「～考えていかなければならない」といった表現とすること。

#### 【意見・質疑応答】

- ・4ページに記載のある「所属感を高め」という言葉に違和感がある。こどもたちの個性を伸ばすのであれば、「所属感」という言葉は画一的な印象を与えるため、表現を変える必要があるのではないか。
  - ⇒学校という場での疎外感や孤立感が、不登校となる要因の一つになるのではという考えから、このような表現を使用した。(事務局)
  - ⇒「社会の一員として」といった表現にすることで、意図が明確になるのではないか。
- ・学校施設の跡地や廃校舎の利活用に関しては、詳細に示してしまうと基本計画のようになってしまうことが懸念されるが、現在の表現は「しっかりと視野に入れている」といったことを伝えることができるものであると感じる。
  - ⇒より強調するために、「～一案である」という表現よりも、「～考えていかなければならない」といった表現にするべきである。
- ・地域の方の中には、「地域に小学校は必要である」という意見の方もいらっしゃる。答申における提言は、こどもたちのより良い学びを第一に考え議論した結果であり、この方向性をしっかりと伝え納得してもらえると良い。

⇒答申を受け取った町には、こうしたご意見もあることを念頭に事業を進めていただきたい。（委員長）

- ・答申の内容は問題ないが、抽象的表現があると感じる。例えば4ページの「ICT等の活用等による児童生徒の学びを止めない学習環境の整備」、「地域資源」、「子どもたちが安全かつストレスを感じずに学校に通学できる環境の整備」など。

⇒答申の性格上抽象的な表現になってしまうが、1つ目に関しては、感染症や不登校、療養等で学校に来られない子どもたちに対して示したものである。2つ目は、地域の方々によって協力いただいている地域学習等を指している。3つ目は、スクールバスの導入を想定した表現である。（事務局）

⇒説明を聞いて理解できた。修正は不要である。

- ・【提言Ⅱ】に向けた記述について、前回と比較して非常にイメージしやすいものになったと感じる。

## ○その他

- ・各委員により、本委員会への参加に対する感想やコメント等を述べられた。
- ・本日確定した答申は、修正後に町長へ提出する。

以 上